

### 3. 4 統括委員会によるサブプロジェクト全体の運営

#### (1) 業務の内容

##### (a) 業務の目的

サブプロジェクト①に、3つのサブプロジェクトのメンバーからなるプロジェクト全体を統括運営する統括委員会事務局を設け、サブプロジェクト相互の協力・連携を図り、研究成果の社会還元への推進に努める。研究の中間成果も含めて、広く研究の成果を社会に説明すること等を通じて、社会の科学リテラシーや防災リテラシーの向上に繋がる方策を検討して、実践する。さらに、本研究計画で主として対象とする首都圏での成果を、中京圏、京阪神圏等、脆弱性を克服すべき多くの都市にも広げる方策についても検討する。

##### (b) 平成 27 年度業務目的

- 1) サブプロジェクト相互の協力・連携を図るため、3つのサブプロジェクトの研究者等からなるプロジェクト全体を統括運営する「都市の脆弱性が引き起こす激甚災害の軽減化プロジェクト統括委員会」を2回程度開催して、プロジェクト全体の進捗を管理するとともに、サブプロジェクトの研究の進展に対する相互理解を深め、サブプロジェクト間の協力・連携による発展的研究成果の創出に努めるとともに、研究成果の社会還元を推進する。
- 2) 都市の地震被害評価や巨大な地震が都市を襲うことを想定した激甚災害の軽減方策についての研究を推進するため、各サブプロジェクトが開催する国内外の交流会等に参加し、地震防災研究に関する議論や交流を図る。

##### (c) 担当者

| 所属機関      | 役職 | 氏名   | メールアドレス                  |
|-----------|----|------|--------------------------|
| 東京大学地震研究所 | 教授 | 平田 直 | hirata@eri.u-tokyo.ac.jp |

#### (2) 平成 27 年度の成果

##### (a) 業務の要約

- 1) サブプロジェクト相互の協力・連携を図るため、3つのサブプロジェクトの研究者等からなるプロジェクト全体を統括運営する「都市の脆弱性が引き起こす激甚災害の軽減化プロジェクト統括委員会」を2回開催して、プロジェクト全体の進捗を管理するとともに、サブプロジェクトの研究の進展に対する相互理解を深め、サブプロジェクト間の協力・連携による発展的研究成果の創出に努めるとともに、研究成果の社会還元を推進した。
- 2) 都市の地震被害評価や巨大な地震が都市を襲うことを想定した激甚災害の軽減方策についての研究を推進するため、各サブプロジェクトが開催する国内外の交流会等に参加し、地震防災研究に関する議論や交流を図った。

## (b) 業務の成果

### 1) 都市の脆弱性が引き起こす激甚災害の軽減化プロジェクト統括委員会

平成 27 年 8 月 28 日と平成 28 年 1 月 19 日に「都市の脆弱性が引き起こす激甚災害の軽減化プロジェクト統括委員会」を開催した。各サブプロジェクトの研究代表者と担当者及び有識者から構成される統括委員会委員とオブザーバが出席し、サブプロジェクトごとに進捗状況について説明があった。これらの説明をもとに、他サブプロジェクトの研究の進展に対する相互理解を深め、サブプロジェクト間の連携や中間成果の広報活動などプロジェクト全体の運営について意見交換や総合的な議論を行い、プロジェクトを円滑に推進させた。

なお、統括委員会の議事録は、4.1 会議録に掲載した。

### 2) 国内外の交流会等への参加

都市の地震被害評価や巨大な地震が都市を襲うことを想定した激甚災害の軽減方策についての研究を推進するため、平成 28 年 2 月 29 日に開催されたサブプロジェクト③の公開研究報告会に参加し、サブプロジェクト①の研究成果の発表と議論を行った。プログラムを表 1 (P.194) に示す。

## (c) 結論ならびに今後の課題

「都市の脆弱性が引き起こす激甚災害の軽減化プロジェクト統括委員会」を 2 回開催した。各サブプロジェクトが開催した国内外の交流会に参加し、最新の地震防災研究について活発な議論を行った。

## (d) 引用文献

なし

## (e) 学会等発表実績

学会等における口頭・ポスター発表

| 発表成果（発表題目、口頭・ポスター発表の別）        | 発表者氏名   | 発表場所<br>（学会等名）          | 発表時期            | 国際・国内の別 |
|-------------------------------|---------|-------------------------|-----------------|---------|
| 東日本大震災後の首都圏の大地震とその災害像<br>（口頭） | 平田直・堀宗朗 | サブプロジェクト③ 公開研究報告会（千代田区） | 2016 年 2 月 29 日 | 国内      |

学会誌・雑誌等における論文掲載

なし

マスコミ等における報道・掲載

なし

(f) 特許出願，ソフトウェア開発，仕様・標準等の策定

1) 特許出願

なし

2) ソフトウェア開発

なし

3) 仕様・標準等の策定

なし

**(3) 平成 28 年度業務計画案**

- 1) サブプロジェクト相互の協力・連携を図るため、3つのサブプロジェクトの研究者等からなるプロジェクト全体を統括運営する「都市の脆弱性が引き起こす激甚災害の軽減化プロジェクト統括委員会」を2回程度開催して、プロジェクト全体の進捗を管理するとともに、サブプロジェクトの研究の進展に対する相互理解を深め、サブプロジェクト間の協力・連携による発展的研究成果の創出に努めるとともに、研究成果の社会還元を推進する。
- 2) 都市の地震被害評価や巨大な地震が都市を襲うことを想定した激甚災害の軽減方策についての研究を推進するため、各サブプロジェクトが開催する交流会等に参加し、地震防災研究に関する議論や交流を図る。
- 3) 3つのサブプロジェクトにおいて、主にプロジェクト期間中に得られた研究成果をまとめた総括成果報告書（仮称）の作成と編集に協力する。
- 4) 都市の脆弱性が引き起こす激甚災害の軽減化プロジェクト全体の成果を活用促進するために、多くの人々に向けた最終成果報告会を開催し、広報物の作成とホームページへの掲載や希望者への配付を行う。

表 1 サブプロジェクト③ 公開研究報告会 プログラム

日時：2016 年 2 月 29 日（月）10:00 - 17:15

場所：全国町村会館ホール

主催：都市の脆弱性が引き起こす激甚災害の軽減化プロジェクト

「都市災害における災害対応能力の向上方策に関する調査・研究」チーム

プログラム （前半省略）

今年の注目研究

15:00 ～ 15:05 はじめに

防災科学技術研究所 理事長・京都大学防災研究所 特任教授 林 春男

15:05 ～ 15:50 サブプロ①「東日本大震災後の首都圏の大地震とその災害像」

コーディネーター：東京大学地震研究所 准教授 酒井慎一

発表：東京大学地震研究所 教授 平田 直

東京大学地震研究所 教授 堀 宗朗

15:50 ～ 16:35 サブプロ②「都市機能の維持・回復のための調査研究の成果の概要」

コーディネーター：株式会社小堀鐸二研究所 副所長 小鹿紀英

発表：京都大学防災研究所 教授 中島正愛

まとめ

16:35 ～ 17:15 総合討論「ポスト都市災害への展望」

コーディネーター：新潟大学危機管理室 教授 田村圭子

討論者：発表者＋コーディネーター＋司会者